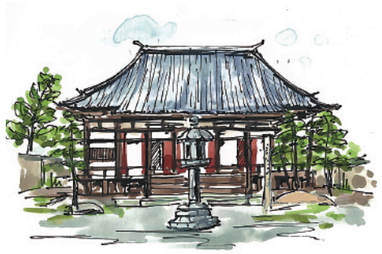
まちづくりマップ

光明皇后ゆかりのまち　法華寺町（ほっけじちょう）

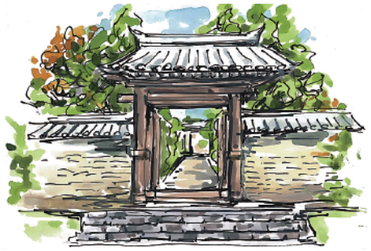
①法華寺（ほっけじ）



法華寺は、光明皇后発願の総国分尼寺として創められ、正式には法華滅罪之寺と云う。天平17年(745)5月、藤原不比等の邸宅を光明皇后が先帝のために改めて伽藍としたもの。皇后宮を宮寺としたのが法華寺の始まり。（『続日本紀』）

〈本堂　木造十一面観音菩薩立像(国宝)　乾漆維摩居士座像(重文)など〉

②海龍王寺（かいりゅうおうじ）



天平3年(731)に光明皇后が創建。遣唐使として唐へ渡っていた僧玄昉が、帰国途中に東シナ海で暴風雨に襲われた際、乗船に収められていた海龍王経を唱えた結果、九死に一生を得て帰国したことから、遣唐使の渡海安全祈願を営むようになった。

〈本尊　十一面観音菩薩立像(重文)　五重小塔(国宝)〉

③宇奈多理坐高御魂神社（うなたりにいますたかみむすびじんじゃ）

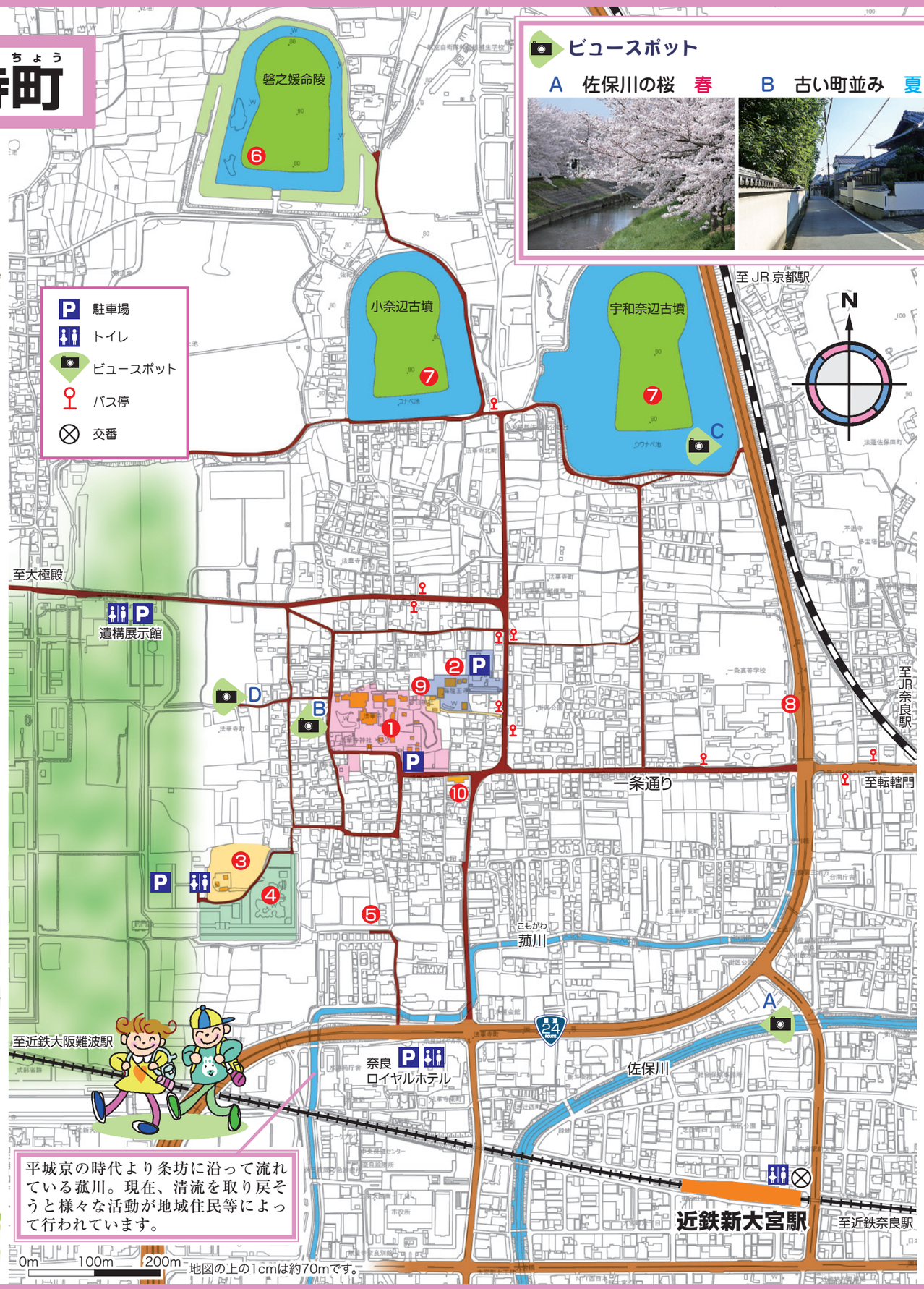
『日本書紀』には、新羅の調を奉られた五社のうちの一社として、伊勢神宮や出雲大社等と列記。3世紀に建てられた神社。本殿は室町時代の遺構で、三間社流造桧皮葺で国の重要文化財。御祭神は天地開闢の造化三神のうちの一神、高御魂神を中殿に、東に太玉命、西に思兼命の神々が祀られている。

④東院庭園（平城宮跡内）（とういんていえん）

1967年、平城宮東張出し部の南東隅に大きな庭園の遺跡を発見。ここは『続日本紀』にみる「東院」にあたり「東院庭園」と命名。称徳女帝が度々儀式や宴を催したといわれ、東西80m南北100mの池泉回遊式庭園で、奈良時代の優美な庭園の様子がしのばれる。自然の風景を主題とした平安時代以降の庭園の原形である重要な遺跡。

⑤阿弥陀浄土院（あみだじょうどいん）

天平宝字5年(761)の「周忌祭」、光明皇太后の一周忌斎会のために造営（『続日本紀』）。2000年に天平時代の浄土庭園遺構や建物跡が発見され伝承を裏付。建物の垂木の先端の飾り金具や「尻塞」と呼ばれる扉や長押の装飾金具なども見つかる。阿弥陀浄土院跡は国史跡。



平城京の時代より条坊に沿って流れている菰川。現在、清流を取り戻そうと様々な活動が地域住民等によって行われています。

ビュースポット

A　佐保川の桜　春

B　古い町並み　夏

C　宇和奈辺池の夕日　秋

D　大極殿を望む　冬

⑥磐之媛命　平城坂上陵（いわのひめのみこと　ならのさかのうえのみささぎ）

佐紀盾列古墳東群の中心で典型的な前方後円墳。仁徳天皇の皇后磐之媛の墳墓で全長219m。初夏には周濠の杜若や睡蓮が美しい花を咲かせる。優れた歌人として、万葉集に愛情の深さを表す歌が四首収められている。

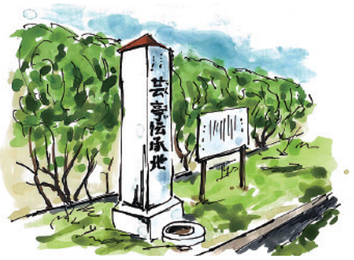
「ありつつも君をば待たむうちなびくわが黒髪に霜の置くまでに」

⑦宇和奈辺・小奈辺古墳（うわなべ　こなべこふん）

佐紀盾列古墳東群に位置し、周囲の濠には四季を通じて野鳥を観察できる。規模は県内でも有数の陵墓参考地。

宇和奈辺古墳:全長255m
小奈辺古墳:全長204m

⑧芸亭（うんてい）



日本で最初の公開図書館とされる施設。奈良時代後期に石上宅嗣（いそのかみのやかつぐ）によって平城京に設置。別名、芸亭院（うんていいん）。自身の邸宅を阿閦寺（あしゅくじ）として改築した際に敷地の一郭に古今の漢籍を中心とした書籍を収蔵し、希望者に閲覧を許可したのが始まり。

⑨春日神社（かすがじんじゃ）

本殿は三間社流造で、中央に天児屋根命（あめのこやねのみこと）、右に白山比咩命（しらやまひめのみこと）、左に伊弉冊命（いざなみのみこと）を祀る。本来、海龍王寺の鎮守であったといわれる。寛延年間に氏子を得る神社となった。

⑩虫籠窓のある家（むしこまど）

江戸時代には、高さを抑えた中二階（厨子二階）として利用されていた家。厨子（つし）二階と呼ばれる商家の中二階は階高や虫籠窓の形状が建築時期によって異なる※ため、建築様式の変遷を知る目印となる。

※丸形（江戸中期）→横長丸形(江戸後期)→長方形(明治)→軒高・長方形（大正）